山岳友の会会報

2017年1月　第24号

もくじ

年頭のごあいさつ　友の会会長　山口　孝 ……2
第28回現地研修会『青崩峠・兵越峠を訪ねる南信州の旅』
報告　熊谷　久 ……2
第29回現地研修会『中山道鳥居峠越え一藪原宿から奈良井宿へ』
報告　竹原　文子 ……4
第26回現地研修会『高山植物の宝庫・秋田駒ヶ岳と乳頭温泉』
報告その3　松尾　正徳 ……6
信州フィールド科学賞授賞式・第9回憧憬の森講演会・会員交流会報告
報告　小林　久雄 ……7
古道徳本峠道を守る会フォーラム報告
報告　小林　久雄 ……7
事務局よりお知らせ 編集後記 ……8

年頭のごあいさつ

友の会の皆様、明けましておめでとうございます。
お元気で新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。
昨年度も友の会の行事に多くの皆様の参加をいただき、盛会のうちに無事終了いたしました。
昨シーズンの山を振り返ってみますと、悪天候に悩まされた年となり、登山者の入れ込みは1割ほど減りました。山小屋はお天気次第の商売だと痛感した年でした。
８月１１日に第１回山の日制定イベントが、上高地に於いて皇太子御一家御臨席のもと、好天に恵まれ盛大に開催されました。関係者の皆様方、大変お疲れ様でした。
数多くある山岳景勝地の中で、上高地が選ばれた事は大変な名誉であり、我々地元住民も嬉しい限りであり、改めて聖地「上高地」を見直す機会をもらいました。
本年度も友の会の皆様の御協力と御支援をいただき、より充実した中身の濃い山旅を企画しております。こぞっての御参加をお待ちしております。
皆様にとって穏やかで素敵な一年となるよう願ってやみません。
本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

友の会会長　山口　孝

第 28 回 現地研修会報告（季秋の南信濃に学ぶ）

1. はじめに

青崩峠（あおくずれとうげ）は静岡県浜松市天竜区と長野県飯田市の間にある標高 1,082m の峠である。峠付近の地質構造は、中央構造線による破砕帯となっており、山腹に広がるむき出しになった青い岩盤から峠の名が付けられた。静岡県側・長野県側ともに、国道 152 号の端点から林道、遊歩道（かつての塩の道）を歩いて峠にたどり着くことができる。武田信玄による 1572 年の徳川領侵攻において、軍兵の一部が通過したことで知られている。（出典 ウィキペディア）

2. 曹洞宗永光山 法運寺を訪ねて

10 月 22 日(土)は、いつもの友の会現地研修会には珍しく、予定時間通りに松本駅アルプスロを出発できまして、松本インターチェンジから長野自動車道を順調に南下しました。松川インターチェンジから一般道に下り、下伊那郡喬木村の古刹である法運寺を訪ね、広澤住職の案内で見学させていただきました。山門から振り返れば、北から中央アルプス、風越山から恵那山までの山容が素晴らしく、飯田市出身の私が、子供の頃から天竜川の西側から見ていた南アルプスの景色とはまた違った趣を感じました。その後、バスは飯田市街地へ向かい、有名なリンゴ並木を車窓から眺めた後、飯田駅前の「〆清（シメキヨ）」で飯田名物のオタグリ(馬の内臓肉を味噌味で煮込んだ当地のB級グルメ)を買い求めました。この「〆清」の経営者である林 徳一氏は、私の母の従兄弟でありまして、遠い親戚筋に当たりますので、皆さん、飯田へお出かけの際は、ぜひ〆清ののれんをくぐり、地酒「喜久水」の熱燗とオタグリをご賞味下さい。

3. 青崩峠道路と中央構造線

私たちを乗せたバスは、飯田駅前から天竜川の弁天橋を渡り、喬木村から三遠南信自動車道(小川路峠道路)の矢筈トンネルを抜けて、国道 152 号(秋葉街道)に合流し、道の駅 遠山郷には 13:30 頃到着しました。各自、昼食を済ませてから、国土交通省 中部地方整備局飯田国道事務所の桑原建設監督官の案内で、三遠南信自動車道 青崩峠道路の青崩峠トンネル長野県側調査坑口を見学しました。青崩峠トンネルの本坑延長は、危険物積載車両通行規制の関係で 4,998m に決定したとの説明を受け、丁寧な視察資料をいただきました。

現在は、調査坑の総延長 5,014m のうち約半分の 2,635m の掘削が完了しているとのご説明でした。

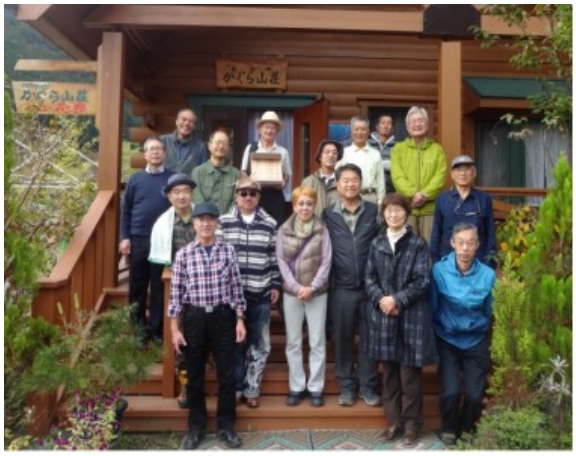
現地研修会恒例の質問タイムでは、中央構造線に係わる地質学的な事項や、本線のルート選定、トンネル掘削残土の処分方法など道路の基本設計に関する質問が矢継ぎ早に飛び出しましたが、桑原建設監督官は、いやな顔一つせずに、丁寧に応対していただきました。30 分程の短い見学時間ではありましたが、南信州の山岳を貫くトンネル工事現場を訪ねるという現地研修会の狙いは、十分に達成できたと感じました。

行動予定では、この後に兵越峠(翌日が峠の国盗り綱引き合戦)の探索でしたが、マイクロバス以上は通れない道路であることが分かり、本日の宿舎であるかぐら山荘に下りました。

4. かぐら山荘での意見交換会

行動予定より大分早い時間にかぐら山荘に到着しましたが、それぞれに隣接の道の駅遠山郷にある温泉施設「かぐらの湯」の塩湯を堪能し、夜の意見交換会(大宴会)に備えていたようです。

夕飯のお膳には、馬刺し、刺身コンニャク、ヤマメの塩焼き、イナゴの甘露煮と絹の花(蚕の蛹の甘露煮)、五平餅など南信濃の名物が並びました。特に、イナゴや絹の花は、私の小学生時代のおやつでもあり、おいしくいただきましたが、あまりにも少量であったことを不満に思いました。昔のようにドンブリ鉢で腹一杯食べてみたい・・・・。 お酒もビールからワイン、日本酒と、いつもの友の会の宴会らしい賑わいでしたが、私を含むこのメンバーは、どのくらいお酒を飲んだら「堪能した」というのでしょうか。



5. 旧木澤小学校を訪ねる

翌 23 日(日)は、晴天に恵まれました。かぐら山荘からバスで 10 分程移動して、昭和の香りが残る木造校舎の旧木澤小学校を訪ねました。私たちが小学生の頃使っていた木製のイスと机、足踏み式のオルガンなどが展示されていて、昭和生まれの私たちは、タイムスリップしたかのような木造校舎と展示品を予定時間をオーバーして見学しました。ここでは、松尾さんがピアノとオルガンを演奏してくれまして、松尾さんの隠れた才能に驚き、感心した次第です。

6. 飯田市美術博物館

南信濃木沢から、秋葉街道、矢筈トンネルを通って飯田市内に戻り、飯田市主税町の飯田市美術博物館を訪ねました。飯田市美術博物館は、私の母校である長野県飯田長姫高等学校の跡地に建設されていますので、私にとっては感慨深いものです。この付近一帯は、45 年前とずいぶん変わりましたが、飯田長姫高等学校の校章に使われていた長野県天然記念物の安富桜(長姫のエドヒガン)は、樹齢推定 450 年以上で、当時の面影を今なお残すものです。ちなみに、私が通っていた飯田長姫高等学校も旧木澤小学校と同じ木造 2 階建で、木製の引き戸、木枠のガラス窓でした。

飯田市美術博物館で特に私の興味を引いたものは、飯田出身の偉人展でした。約1時間の見学時間の大半をここで費やしまして、私の体に少しだけ残る飯田人の血がそうさせたような気がします。

7. 現地研修会のまとめ

今回の現地研修会は、私の故郷である飯田市を訪ねる旅でしたが、私は、毎月 1 回、労働安全コンサルタントの仕事で、飯田市から大鹿村、南信濃、阿南町などの工事現場を訪問しています。特に、三遠南信自動車道 小嵐バイパスの工事現場やかぐらの湯の食堂「味ゆ～楽」は、“おなじみさん”なのですが、仕事を離れて来たのは本当に久しぶりです。友の会の皆さんと一緒に南信濃の新しい発見ができたことに感謝いたします。最後になりましたが、研修会を計画し、準備をされてきました事務局の皆様と中村秋男さん、朝日観光自動車株式会社の加藤順子運転手に感謝を申し上げまして、第 28 回 現地研修会のまとめとさせていただきます。

熊谷 久

藪原宿～鳥居峠～奈良井宿道中記

11 月 19 日（土）
天候：雨
行程：藪原駅～藪原宿～中山道鳥居峠～奈良井宿
講師：秋山文太郎先生
特別講師：現代の名工・篠原武先生
参加人数：12 名

あいにくながら、藪原駅に会員集合した時点で、雨は降り続いていた。
まあ、この程度の雨では気にもかけない御仁たちではあるが。
遠くは静岡からお越しの小石ドクターと、皆勤賞・横浜からの松尾さんを含めて 12 名が、秋山文太郎先生を先達として、藪原宿～鳥居峠～奈良井宿を目指す。

藪原も歴史ある宿場ではあるが、近年メインルートから外れた感ありで、隣市に住む私もよくよく街中を歩いたことがない。秋山先生の案内で、格子戸造りの家や昔からの酒屋をながめながら中山道を往く。飛騨街道分岐点を過ぎ、御鷹匠役所跡からは眼下に藪原宿がすっきりと臨めた。

そぞろあるきながら、今日のメインの一つ、お六櫛の名工・篠原武氏の工房へ。文太郎先生の父上行男氏のご尽力で、作業している所を見せていただいたのだが、これがまたとてつもなく細かい作業であり、緊張の連続であった。篠原氏は櫛作り 43 年とのこと。

簡単にお六櫛について記すと、
・長野県伝統工芸品
・江戸時代享保年間頃より作られ始め
・かつては全国に流通
・材はミネバリ（オノオレカンバとも）堅くて緻密が主
・櫛の種類は 4 種類（梳き櫛・解かし櫛・挿し櫛・結櫛）
・櫛木の準備 → 櫛木削り → 櫛の歯造り → 櫛の仕上げ 約 20 工程
細かくは
① 削り ②歯挽き ③歯通し ④中抜き・山抜き ⑤耳付き・耳丸め ⑥磨き
私たちは、この①→⑥を見せていただいた。まさに息を止めて。

他の伝統工芸品の職人さんから聞いたことがあるが、「品物を作る前に道具を作る」。既成の物も使うが、己が使いやすいような道具（工具）を考案して作り出す。「そこから始まる」と聞いたことがある。お六櫛もそのようで、いろいろと工夫がされた道具を見せていただいた。80 種以上あるそうだ。人の知恵は深いと感服する。

引き上げる時に、全員に可愛い梳き櫛をいただいた。雨の中、わざわざ私たちのために櫛作りを実演して下さった現代の名工・篠原武さんに心からお礼を申し上げます。貴重なお時間をありがとうございました。

会報をご覧のみなさん、もし機会があればぜひお六櫛をお使いください。乾燥しても静電気はおきませんし、常時使っていると、髪に艶がでてきますよ。

さて、いよいよ峠越えと張り切って動き始めた私たちに、またまたうれしいサプライズが待っていた。途中、秋山ご本家の前を通るのだが、そこで魅力的なお茶のご接待が・・。もちろん遠慮しながらも、こういうご接待はありがたくお受けする面々。透明なお茶や濁ったお茶、美味なお漬物、手作りワッフルなどめいっぱい頂いて、果たして峠越えができるのか・・・心配になってくる。

秋山ご本家のみなさま、ごちそうさまでした。ずうずうしい面々ですみません。

これからメインイベント、鳥居峠越え。江戸時代、中山道の難所といわれたが、近年トレッキングルートとして歩く人も多い。私も夏に歩いたことがある。植生が中信と少し違っていて楽しかった。

今回は晩秋、雨の峠越えである。雨もドシャブリとなるとつらいが、そぼ降る秋雨の峠歩きはなかなかよいものである。石畳から歩き始め、ゆっくり高度を上げていく。周りの木々は落葉し、音は雨に吸収され静かである。途中いくつもの石碑があったが、摩耗してよく分からないものも多い。落葉の山で樹種が分かりにくいが、お六櫛の材であるミネバリがところどころに植林されていた。

あちこち眺めながら、頂上近くの休憩所でお昼タイム。平らかで、緑茂れる時は、外でゆっくりしたい所である。この周辺は句碑や旧跡なども多いようだ。休憩所を出発するとすぐ御嶽の遥拝所が見えてくる。あいにく御嶽はガスがかかり見えなったが、天気の良い時はきれいに望めることだろう。その時の古人の感慨はいかばかりかと思ってしまう。

そのままなだらかに行くと、トチの大木があちこち見られる。立派なものである。秋にはさぞたくさんの実をつけたことだろう。捜してみたが、たまに一つ、二つ残っているのみだった。いわれのあるトチらしい。

そのまま峰の茶屋までいくと、美味しい清水があふれていた。一杯含み下っていくと中の茶屋、かつて木曽氏と武田氏の古戦場となった葬り沢を抜けて、また石畳の古道を下りていく。

特に急いだわけではないが、そのまま奈良井の鎮神社に着いてしまった。雨のせいなのか、奈良井研修は中止となり、そのまま解散。

時間を計ったら、藪原駅に着いてから解散まで、5 時間弱。この中にお六櫛工房見学時間と、秋山ご本家のお茶タイムが入っているのだから、速いといえば速い。

一つ苦言。

いつも思うことだが、研修の締めがどうもいいかげん。遠くからスケジュールを楽しみに参加して下さる会員もいるのだから、もう少しシャキっと締めてほしいと思うのは私だけでしょうか？参加者全員の前で、スケジュール・解散場所を決めておいてほしい。早い人、遅く着いた人でも、迷わないようにしてくださいね。

竹原文子

秋田駒ヶ岳、眠れぬ夜の記

強烈な風雨に幾度も体の自由を奪われながら、しかしその先にぼんやり避難小屋の輪郭が現れた時、踏ん張り続けた足の力が抜けて体がもう一度宙に浮いた。山頂直下のその小屋で、東側の道を辿らずもと来た道を引き返しましょうとの佐々木先生の指示がなければ、さらに強烈な風雨で下山はどれ程の困難を極めていたことか。幼児の一筆書きのような稚拙な軌跡を描いた台風１０号が岩手県上陸を直前にして、あのまま東側の斜面を下っていればいっそう激しい風雨が襲いかかったに違いない。ずぶ濡れで、それでも三班に別れた全員が無事に下山して、その夜の宿「しらはま屋」の宴会で、あれでもし山の気温が低かったらと、山口会長の軽妙なご挨拶を笑いの中でひとり顔を伏せて聞いた。風が強くて危ないからと途中、引き返される仲間の言葉に耳をふさいで必死に登りの列に付き、なぜあのとき一緒に引き返さなかったのか、東側ルートをあのまま下山していたならと、自己責任の欠落を恥じてビールの味は苦いものとなった。その夜、窓に叩きつける風を聞きながら夜具の中でも足を踏ん張り続け、いつまでも眠れずにいた。

思えば前日の乳頭温泉もそうであった。「鶴の湯」の古い看板のかかる時代劇さながらの門構え、その向こうに長屋造りの茅葺の宿。歴史ある人気の宿でよくぞこの人数が予約出来たと感心すれば、その予約方法がまるでバブル時のゴルフ場のごとく、こんな山奥で今なお時代錯誤的な方法を残した宿がと呆れてしまって、ご苦労された鈴木教授にそれを後から伺った。宿の入り口では幾つもあるお風呂の説明を受けたが、明日の天気を案じ足早な雲に見とれて話をうわの空で聞いたのが間違いであった。内風呂を経てお仲間に遅れて露天風呂へ行けば、広い湯船にしばらくすると我が身ひとりに。そして若い男性が向こうから体を沈めて来たのを見て、当方は源泉の湧き出す風呂の奥へと体を移動させる。乳白色の湯がいつしか闇に溶け、辺りは微かなランプが灯るだけのほとんど闇の世界。天気を案じ立ち上がって両手を腰に空を見上げて、ふと闇の中から何やらヒソヒソ話と時に笑い合う気配が。思えばその時に気づくべきであったのに、時折こちらを見る気配を感じながらも何ら疑念を持たず、無防備に空を見続けたことが今でも腹立たしい。もといた場所に戻ろうと声の方向にお湯をかき分けたその瞬間、闇の向こうで影のひとつが突然はじけて湯けむりの湧き立つのが同時であった。なだらかな白い肩の傾斜とふくらみの片方がかすかに闇に透け、バランスを崩したその影が一瞬お湯から浮かび上がってまた湯に沈んだ。それから何ごともなかったかのように闇の向こうへゆっくりと消え去った。しばらくして、ひとりになって消えた闇の後を追うとそこに小さな張り紙で、「ここは姫通り、男性はここまで」。もっと心して入るべき場所だったのに、そうだったのかと悔やみつつ、小さなランプが二つだけの暗い闇の訳を知るのだった。翌朝、宿の下を流れる沢の音がうるさくて一晩中眠れなかったとお仲間の嘆くのを聞いて、寝不足な者がもうひとりいたが、その理由は別であった。

松尾正徳

信州フィールド科学賞授賞式・第9回憧憬の森講演会・会員交流会報告

12 月 3 日、信州フィールド科学賞の授賞式と受賞講演会が開催されました。

今回は、北大・北方生物圏フィールド科学センター・助教の小林真さんが受賞され、「周極域の山岳地における植生遷移と炭素循環」という講演でした。周極域の地形の遷移や氷河退行地域での遷移など興味深い調査研究のお話でした。

引き続き『憧憬の森講演会』では、自然写真家・小口和利氏からの講演「涸沢は僕の原点」でした。涸沢ヒュッテでお手伝いの青春の懐かしい写真に始まり、涸沢を中心に北アルプスの山岳写真、ヨーロッパ・ヒマラヤ・アラスカにパタゴニアなど・・・・世界の山岳で撮影された素敵な写真に魅了されました。

友の会会長の山口孝氏（涸沢ヒュッテ社長）が、この秋に「瑞宝単光章」叙勲を受けられたことを祝い、次期　蝶ヶ岳ヒュッテのマドンナ梢嬢からお花の贈呈に、例年になく盛り上がった「忘年会」となりました。

小林久雄

古道徳本峠道を守る会に参加して

10 月 29、30 日 2016「古道徳本峠道を守る会」に参加しました。

山岳写真の三宅岳氏の「峠道は語る−山仕事断章−」の講演でフォーラムが開かれ、心酔の会で来期への継続と協力を誓いました。

翌日、来春までの準備で上部の橋を外して格納し、二ヶ所の滑る橋を撤去して修復しました。

石積みしたりと大変な作業でしたが…頑張って無事に終了出来ました。

友の会から神谷さんと奥原さんが参加しました。

霧の中で寒さにも耐えながらの１日でした。

小林久雄

事務局よりお知らせ

◎冬の「キッズ・キャンプ」中止のお知らせ

夏の「キッズ・キャンプ」の反省とスタッフの意見などをいただき、冬の開催を予定した時期が短い春休み期間中で子供たちも多忙な事や、キャンプの内容など検討が不十分でスタッフの調整も難しく、今回の募集は取り止めて再度意見をいただきながら今後の計画などに反映したいと考えます。

◎事務所不在時の連絡先について

友の会事務局へのご連絡やお問合せは、メール、ＦＡＸ、またはお電話にてご連絡いただいておりますが、事務員が不在で緊急の場合は事務局長まで直接ご連絡ください。

小林事務局長　℡ 090-1429-4278

E-mail　kobaq@coral.plala.or.jp

（※この連絡先は個人番号の為、出来るだけ事務局の方にお願いします）

編集後記

６年間が過ぎる友の会。２０１７年は出羽三山の月山をメインに魅力有る活動をすすめたいと思います。７年目の活動に皆さんも是非ご一緒に希望や意見を事務局までご連絡下さい。よろしくお願い申し上げます。

表紙の写真は花桃の昼神温泉です❣

cobaQ

12月３日山口会長を囲んで記念撮影

信州大学山岳友の会会報　第24号
発行日：2017年1月6日
発行：信州大学山岳友の会
〒390-8621　長野県松本市旭3-1-1
信州大学山岳友の会事務局
FAX：0263-37-2438
E-mail：suims@shinshu-u.ac.jp